

校長 「2学期 終業式の話」

約4カ月あった2学期も今日で終わりになります。授業を中心に毎日の学校生活では、目の前の一つ一つのことに取り組んで、努力が必要な忙しい日々を送ってきたことでしょう。1年生は宿泊体験学習、2年生は職場体験学習や修学旅行、3年生は高校の体験学習や未来会議、進路決定に向けた三者面談など、2度の定期考査とともに頑張った忙しい日々であったと思います。また、合唱コンクールや文化祭・文化週間はみんなの共通した思い出として、これからの皆さんをつなぐ話題の一つになっていくことと思います。

さて、世の中の話題としては、ワールドシリーズで優勝し MVP を受賞した大谷翔平選手の話や、日本の政権では自民党が少数与党となり予算案の調整が行われている話題がありました。そして、世界では2024年のノーベル平和賞の授賞式が12月10日、ノルウェーの首都オスロで開かれ、被爆者の立場から核兵器廃絶と原爆被害への国家補償を訴えてきた「日本被団協（日本原水爆被害者団体協議会）」に賞状とメダルが贈られました。ノーベル平和賞は、「世界で最も権威のある賞」とも言われ、アルフレッド・ノーベルさんの遺言に基づき、世界平和に貢献をした個人または団体に贈られる賞です。今回の（日本被団協）の授賞理由は「核兵器のない世界の実現を目指して尽力し、核兵器が二度と使われてはならないことを目撃証言を通じて身をもって示してきた」というものでした。テレビのニュースで演説を聞いた人も多かったと思いますが、被爆時、広島市では当時の市人口約35万人のうち14万人が、長崎市では約24万人のうち7万4千人が原爆により死亡しました。生き残った被爆者も核爆発に伴う熱線、爆風によって重度のやけどを負い、外傷を克服しても、がんの発生率が高まるなど放射線の後障害にも悩まされ、肉体的な被害だけではなく、肉親を奪われたトラウマ、貧困、結婚や出産、就職をめぐる差別にも苦しんでこられました。代表委員の田中熙巳（てるみ）さんは、受賞演説で「人類は私たちの犠牲と苦難をまたふたたび繰り返してはなりません。破壊と死滅の方向に行くおそれのある原子力を決定的に人類の幸福と繁栄との方向に向わせるということこそが、私たちの生きる限りの唯一の願いであります」「そのとき目にした人々の死にざまは、人間の死とはとても言えないありさまで、誰からの手当ても受けることなく苦しんでいる人々が何十人、何百人といました。たとえ戦争といえども、こんな殺し方、こんな傷つけ方をしてはいけないと、私はそのとき強く感じました。人類が核兵器で自滅することのないよう、核兵器も戦争もない世界の、人間社会を求めて、ともに頑張りましょう」と全世界に訴えられていました。たいへん心打たれる、世界中の人々に響く演説でした。ネットで検索し、ぜひ、冬休みにまた聞いたり、読んだりしてみてください。

さて、これから約2週間の冬休み、世界の平和や日本の政治や未来についても、目を向けて考え、勉強することや体を鍛えること特技など、いろいろなことに興味を持ち、努力やチャレンジをしていってください。みなさん、よい新年のスタートを迎えてください。